

“総合的”な予防医学の研究

—0次から3次予防及び、救急医学や死までを包括—

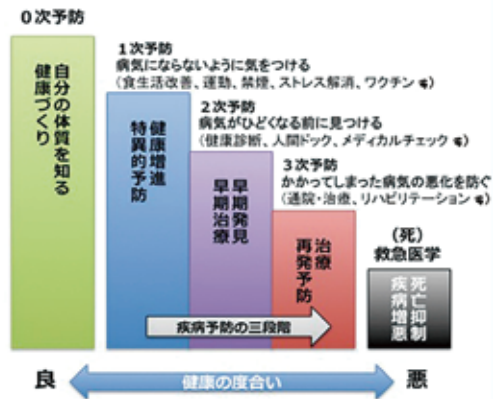
教授 伊藤 守弘

ITO Morihito

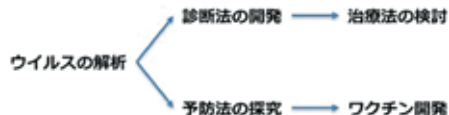
生命健康科学部 生命医科学科



予防医学の概念



ウイルス研究における予防医学



医療は、「病気の治療」や「社会復帰の促進」などから、「早期発見」・「健康増進」という、人々の関心が予防医学へと確実にシフトしている。予防医学は元来、衛生学・公衆衛生学・微生物学等が担当してきたが、近年、より総合的な予防医学としての再考・細分化(上図)がされてきている。当研究室は、これまで、ウイルス研究における予防医学(下図)を中心に取り組んで来た。感染症の原因となるウイルスを解析し、ウイルスが特定されれば、治療法が確立される。また、ウイルスを識ることで、予防法を探究することができ、予防接種や診断法の開発につなげてきた。これらの経験をベースに、現在の微生物学に固執せず、大きなくくりである予防医学を研究軸として進めている。具体的には、従来の微生物学・感染症学分野を基盤としながら、生活習慣や身体生理学的な分野、メディカルチェック、リハビリテーションなどの進んだ予防と、予防から突出した分野である救命医療や死後画像診断まで、幅広い研究テーマを展開している。

【研究テーマ】

- ウイルス感染における細胞障害機構の解析
- 抗ウイルス活性の評価
- 新しい生活におけるマスク着用時の生理学的影響評価
- 心肺蘇生(CPR)の体位が質に及ぼす影響の検討
- 病院前救急医療におけるモバイルエコーの有用性検討

キーワード

予防医学、病原微生物、感染制御、CPR、画像診断

相談に応じられる内容

予防医学に関する事項、感染制御に関する技術、抗インフルエンザウイルス活性の評価、画像診断の応用利用と評価、心肺蘇生法の質評価に関する検討

特許

P102参照